
スリップ事故は、これから増加

時間帯では、午前中は7時から9時、午後は5時から6時が最も多い傾向にあります。

朝や夜の間、冷え込んでぬれた路面が凍結したり、雪が積もったりして路面の状況が変わりやすい一方で、ドライバーも冬道での運転にまだ慣れていないことが背景にあります。

また、スリップが原因の死亡事故は、カーブや交差点よりも直線で比較的多く、昨年度までの5年間で起きた事故のうち、半分以上を占めています。

普通車が対向車線にはみ出して大型車と正面衝突する事故が目立っていて、警察では、普通車のドライバーが大型車とすれ違う際に怖くなってハンドルやブレーキを急に操作することが大きな要因になっていると見えています。

アイスバーンの危険性

冬のスリップ事故を防ぐために気をつけたいのが、いわゆる“ブラックアイスバーン”の路面です。

路面の表面に薄い氷が張った状態のことで、見た目がアスファルトの路面とあまり変わらないため、凍結していることに気づきにくくなります。

この危険性を調べるため、J A Fは実験を行いました。

ブラックアイスバーンとぬれただけの路面で、時速40キロで走っている車が急ブレーキをかけ、何メートルで止まるかを比較しました。

この結果、ぬれた路面が11メートルで止まったのに対し、ブラックアイスバーンはその6倍以上の69.5メートルを要しました。

これは積雪が多くなる時期に増える、圧雪の路面と比較しても3倍以上です。

J A Fでは、ブラックアイスバーンの路面を運転する際の注意点として見た目でアイスバーンではないと判断しないこと、滑ることを前提にした運転を心がけること、それに発進、停止、カーブで急に車を操作しないことを挙げています。